

あぶら通信

第41号 2019年12月 あぶらむの会発行
〒509-4121 岐阜県高山市国府町宇津江3225-1
TEL・FAX 0577-72-4219
E-mail : abram@hidatakayama.ne.jp



Alexandra '19

ペルー インディオのクリスマス
絵：ドイツからのウーハー アレクサンドラ

飛驒便り

新たな元号になった2019年、異常と思われる気象が今年も各地に大きな被害をもたらした。

あぶらむに連なる人の中にも被災した人が出た。皆さんの一年の安否を伺う言葉が「お元気でお過ごしでしょうか」から「大丈夫でしたでしょうか」という言葉に変わりつつある今日、異常気象による自然災害が身近なものになってきたように思えてなりません。いかがお過ごしでしょうか。

○あぶらむの里の小さな異変

台風15号・19号による風水被害に関しては報道に譲るとして、ここあぶらむでは災害被害は少なかったものの植物の異変が多く見受けられた。一番の驚きはクマザサ（熊笹）に花が咲き枯れてしまったこと。宿の裏手にクマザサが群生していて一年中美しい新鮮な緑色を成している。その葉を皿に添えるだけで料理も美味しそうに見え、食卓をフレッシュな感じにしてくれる。6月頃、そのクマザサにこれまで見たこともないようなものができていた。ススキの穂のようなものでよく見たら「花」だった。私は植物の生態にはまったくオンチだが、一般的に笹は百年に一度花が付き、花が咲くと枯れてしまうと言われている。

少々心配しながら見守っていたがその言い伝え通り全て枯れてしまった。あのみずみずしい緑色が茶色に変色し、粘りのある細幹は軽く指で挟むだけで簡単に折れてしまう。12月というのに難を逃れた笹にまだ花が咲いている。何が起こったのだろうか、何かが起こっていると悪い方に考えが持ってしまうのです。

今年はまだキノコや木の実の不作年でした。天然キノコはほぼゼロ、ホダ木に植菌したシイタケもゼロ、ナメコだけは味噌汁の具程度。また里の多数を占めるコナラの実（ドングリ）はほぼゼロ状態。これでは熊もゆっくりと冬眠もできず12月に入ってもあちこちで出没情報。昨年に引き続き今年も完成間近な「年間天気表」を見れば一日中雨の日がわずか13日間、半日雨や一時雨を加えても年間30日に満たない少雨の年では里の植物たちにとっては受難の年だったようです。

他方では大洪水に見舞われ大きな被害の出た日本列島、そして世界に目を向ければこれまで乾燥地帯で雨など滅多に降らない土地での大洪水。何か引き裂かれていく地球の悲鳴、叫びのように思えてならないのです。

○東北被災地「響け！希望のトランペット」

日本全国災害多発生の中、2019年5月19日奇跡の一本松で知られる岩手県陸前高田に52本のトランペットが鳴り響いた。

話のきっかけは些細な会話だった。東北被災地に関わっている本会理事の西田邦昭さんとバイク修理を専門とするメカニックの高橋秀君とのあぶらむでのやりとり、「我らバイク乗りでも被災地に何か出来ることがあるだろうか」という一言だった。日々遠くへ忘れ去られていく被災地、彼地を訪ねるだけでも被災者には大きな力となることを熱く語った西田さん。それならば我らライダーも出来ると、恒例の春のツーリングは陸前高田となったのが昨年のこと。ここ飛驒から陸前高田までは片道760 km余、気合を入れて走らなければならぬ距離である。立教大学時代そしてあぶらむの会設立と多くを助けてもらった西田さんと

ゆっくり語ったのは30年振り、沖縄愛楽園以来だった。被災地で語り合う我々が被災地に来ること、それは困難の中にある人々の気持ちに寄り添うことだった。そこで思い浮かんできたのが本会理事の杉木峯夫さんがやっている100本のトランペットだった。杉木さんは東京芸術大学名誉教授で世界的トランペッター、高校時代私の一級先輩で今もあれこれ無理なお願い事を聞いてもらっている心優しい先輩である。口だけ大郷とすべての実務を担うことになった西田さん、そして50名余のトランペッターを全国各地から集め指揮をした杉木さん、こうして生まれたのが「響け！希望のトランペット」だった。当日は天気も味方し数百人の聴衆が新しくできたショッピングモールの広場を埋めた。歌劇アイダの凱旋行進曲、アメイジング・グレイス、故郷、北国の春、花は咲く等を中学生から70代までのトランペッターが心を込めての演奏だった。私といえば練習不足で早いフレーズでは指がついていけず、音無し構えだけの場面が多かったが…。(そんな私をTVカメラがアップで撮るのには閉口してしまった)。大会実行委員長となった西田さんの言葉が印象的でした。「東日本大震災発災から8年、この間も日本そして世界の各地で災害が多発し、多くの方々が今なお辛く苦しい日々を過ごされています。東日本大震災で壊滅的な被害を受けた地から、東北、日本、世界の被災地に鎮魂の祈りと未来への希望をトランペットの音に乗せ届けたいと思います。」

来年2020年も5月24日に開催されることになった。

○健康ウォーキングのすすめ

先日、「老いと共に」という新聞の生活記事の中で、「旅に出かけて健康になろうという取り組みが広がりつつある」という一文を目にした。旅先での体験が心身のリフレッシュや健康への気づきに繋がり、旅に出ることそのものがその後の生きがいになることもあるという。その中で心惹かれたのが「クアオルト健康ウォーキング」という言葉だった。「クアオルト」とはドイツ語で「健康保養地」の意味である。自然と運動、食事、休養を組み合わせ、人の健康増進を図る試みである。記事を読みながらなるほどと思ったが、同時に「クアオルト健康ウォーキング」という言葉を用いなくてもあぶらむはこの宿開設以来やってきていることであり今頃どうして急に注目されるのだろうかと思った。それは自分の中ではあくまでも感覚的に行っていただけであり、そのことの大切さをしっかりと意識化されていなかったことに気づかされた。

そういえば、最近10名前後の小グループで、あぶらむ周辺の野山をウォーキングすることを目的で訪ねて来られる人が増えてきた。ブナ等の巨木が茂る原生森、低山トレッキングから高山登山まで、そして合掌造り集落などの歴史文化遺産、あぶらむから1時間足らずで行ける「クアオルト健康ウォーキング」最適地が周辺に沢山あることに改めて気づかされた。まさに「灯台もと暗し」だった。

「ヘルスツーリズム」、閉じこもりがちだと思っておられる高齢者の方、「転地効果」も兼ねてあぶらむへお出かけ下さい。あぶらむ周辺の野山へ、そして冬はスノーシューを履いての雪上ウォーキングへご案内致します。

○あぶらむファミリー・ホーム (FH) 設立のその後

昨年11月、第2種社会福祉事業施設としてのFH設立申請書を県の方に提出したことは前

号で報告した。それだけで幾人かの人から応援をいただいた。しかしそれから1年、申請書類の訂正や不備、また県の担当者の部署替えや引き継ぎ不備等で未だに設立許可が下りていないのが現状である。そしてこの間、我々の中にも考えさせられることが多々あり、県当局へのプッシュを積極的にしなかった側面もあった。

1月末、高山子ども相談所（児童相談所）より16歳高校1年生男子の里子としての養護養育の話があった。その時は全日制高校生だったが、3月あぶらむへ来た時はすでに退学し、4月から新たに通信制高校へ再入学するという事になっていた。里親里子としての関係は基本的には18歳まで、私たちとしては与えられた2年間の間にその子をどう育て、世の中に送り出すかと考えた。しかし少年の基本姿勢は、ここあぶらむは単なる下宿先のようなもので、外でのアルバイトを中心とした生活設計、ここでの生活から学ぶ必要はないと言った。

「通学」というものがあればお互いそれぞれで他律的ではあるが一日の生活のリズムが出来るが、日々の生活を自分で律していくとなるとそれは大変難しいこと。16歳の少年には重荷であることは目に見えていたが、少年は自分の主張を譲ることはなかった。そしてそこに入り込んで問題を複雑にするのが「スマホ」であり、「SNS やTVゲーム」と呼ばれる現代社会が直面している一連のものである。やがて昼夜逆転現象が始まり、お互い厳しい状況に立たされた。互いに八方塞がりのような時、父親が引き取るということになり、ここでの2ヶ月半の生活が幕を閉じた。

しかしこの経験はあぶらむにも、私個人にも大きな課題を残すことになった。あぶらむとしては受け入れ態勢の不備であり、私個人としては現実との「妥協」である。

あぶらむFHを考えた時、私は大学時代の仲間で児童福祉の専門家F氏に相談した。現場が抱える問題を熟知しているが故か彼は勧めることはしなかった。もしどうしてもということであれば12歳以下の児童を対象にすべきで、私のような牧歌的考えではそれ以上の年齢の子どもには多くの困難が予想されると賛成はしなかった。16年間で21人の家裁少年との生活である程度のことは理解し、受け止めているつもりだったが、そこには問題の質は似ているとはいえ別の課題が待ち受けていた。

7月下旬、岐阜県里親里子家族キャンプがここあぶらむの里で行われた。1泊2日の日程としては初めての試みにもかかわらず、50名近い参加者が与えられた。ファミリーホームからの参加もあり、それぞれ多くの課題を抱えているにも関わらず、一步一步地道に日々を営んでいる姿を見て、考えさせられ励まされた一時だった。そんなこんなでこれはもっと時間をかけ、よく練り細部を詰めなさいとの天の声と思い、急ぐとことはしなかった。私たちの思いや方向性が変わった訳ではありません。もう少し時間を得たく思っています。

年齢と共に増す時間の経つ早さ、あっという間の一年でした。来年はもっと早くなるのかと思うとたまりません。でも人生はこれから、熱い思いをもって歩みたく願っています。

それではどうぞよいクリスマスを、そしてよいお年をお迎え下さい。

2019年12月

あぶらむの会 代表 大 郷 博

北の庭から

鵜川 貴子

今年もまた例年より遅い初雪が降りました。暖かくて長い秋。そして急激に気温が下がる初冬。雪の多い少ないの差が激しい冬。爆弾低気圧による猛烈な吹雪。

私の記憶にある北海道の秋冬は、もっと穏やかなものでした。

8月のお盆を過ぎると短い夏が終わり涼しくなります。

9月には薄手の長袖を着るようになり、すぐにカーディガンを羽織るようになり、

10月は紅葉の季節でどこもかしこも美しく、下旬に初雪が舞います。

11月は雪の日が増えて、少し積もったかと思えば翌日のお天気ですっかり消えたり。でも根雪になるまでは厚手のオーバーコートは着ません。そこは不文律があり、根雪の前にオーバーを着るのはとてもダサいのです。

12月、いよいよ根雪になり「もっとも暖かい服装」で出歩くようになります。雪は気がつかないほどの静けさでゆっくりと降ります。30cm、50cmと積もってくると、周りの音を吸収するのでどんどん街が静かになっていきます。家の前の雪が道路脇に積み上げられ、少し溶けたり凍ったりを繰り返し自重で硬くなって、子供の背の高さを越えるようになると、小学生は登下校にその雪山の尾根を歩いたりします。

車道側に転げ落ちる心配は全くしませんでした。雪山は結構な幅がありましたし、当時は車はそんなにスピードを出して走っていなかったような気がします。車やタイヤの性能のせいでしょうか。親も先生も、登下校の歩き方なんて細かいことを言わなかったように思います。クリスマスもお正月も真っ白な中で迎えました。（数年前に雪がないクリスマスがありました、その違和感に「この世の終わり」的な沈んだ気持ちになりました。）

1月中旬を過ぎると学校が始まります。教室の中に石炭ストーブのおいが満ちて、ストーブに近い席の子は暑くて頬が赤くなります。それでも、寒い廊下側よりはストーブの近くが人気でした。吹雪く日がありましたが集団登校で固まって歩けばさして辛いとも思いません。天気のいい日は男子が雪玉をぶつけてきたり、先回りして木を揺らして枝に積もった雪を落としてきたり。

2月は最も寒い月ですが、遊んでばかりです。スキー、スケートはもちろん、つららを折って食べたり、陸橋の上で蒸気機関車を待ってその蒸気で温まったり、積もった雪から屋根に登り隣の家の屋根に飛び移ったり、たいへん忙しい毎日です。

3月に入ると急に太陽の光が増えてきて、見る見る雪が解けていきます。下旬になり道路の舗装が出たところから湯気が上がります。触ってみると直射日光で暖かくなっているのははっきりとわかります。春を感じたくて、靴と靴下を脱いで湯気の出ている道路に立ってみました。

4月は雪解けのドロドロの中で入学式が行われます。花はまだ何も咲いていません。一番早く咲くこぶしもまだです。でも光の中に明らかに春がきていることが感じられます。

そんな季節の移り変わりが、何か強引な力で歪められ、めっちゃめっちゃに崩されているよう

な感じがします。少なくとも北海道ではすでに「例年」とか「観測開始以来の平均では」という言葉がなんの参考にもならなくなってきています。毎年のブレが大きすぎるからです。

いつもと違うことがいっぱいあります。理由の分からないことがいっぱいあります。

今年なぜエゴノキは落葉しないんだらう？

今年なぜ葉が枯れない宿根草があるんだらう？

今年暑かったのにスズメバチが少なかったのはなぜだらう？

専門家なら理由がわかるのかもしれませんが。でも私にはたくさんある「自然がおかしいサイン」のように感じられます。

毎年毎年、夏は熊の出没が話題になります。ここ岩見沢市にも保護している原生林があり、そこに熊が住んでいます。近隣の自然公園やキャンプ場が閉鎖されることもあります。住宅地のはずれに出没して、近くの小学校が集団登下校になった年もあります。（集団なら騒がしいから熊が近づかないということでしょうか。）

今年はずいぶん拙宅から500mくらいのバス停付近に熊が出ました。そこは原生林との境に作った道路で、よくキノコ採りの人が森に入っていく場所でもあります。こちらから入れるんだから、あっちから来たっておかしくありませんよね。私もそこで鹿をみたことがあります。その原生林から小さな沢が流れ出ていて、その沢は拙宅の後ろを流れています。

家の敷地から沢までは10mくらいでしょうか。沢伝いに来たとされる鹿が家の横に出てきたこともありました。ということは、熊もいつか出てくるかもしれません。

開拓時代にヒグマ（熊）の悲惨な事件がいくつもありました。当初家畜を襲っていた熊は人を襲うようになり、何人もが食べられてしまいました。「熊嵐」は小説ですが、起きたこと自体は実際にあった事件を元にしてあります。熊は凶暴で、しかもずる賢いと言われていきます。（賢いに「ずる」が付いているのが面白いです。熊は知恵を巡らせているだけで、それを「ずるい」と思うのは人間の都合なのですが。）北海道では熊によって命を失う人は少ないですが、本州では毎年何人かが落命されていますよね。それでも毎年熊との遭遇は起きてしまいます。猿やイノシシの害に困っている人もいます。電気柵を作ったり、追い払ったりしていますが、根本的な問題はそのままです。人間の暮らしが野生動物の生態に影響を及ぼしているのです。

私は何を言いたいのでしょうか。

自分でもわからないのです。わからないのですが、はっきりと「もう限界じゃないですか？」と思うのです。これまでのように暮らし続けるのが。経済活動や産業やエネルギー消費を「これまで通りに」するのが。

京都議定書から何年経ったのでしょうか。調べればわかりますが調べる気にもなりません。パリ協定の到達度は？日本はどれぐらいCO₂の排出削減ができてきているのか？

そういう一つ一つが大切だとは頭ではわかっているのですが、心というか野生の勘というのが、人間と自然の在り方が今までの延長線上ではなくて、根本的なパラダイムシフト（その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観など

が革命的にもしくは劇的に変化すること)が必要なんじゃないかと迫ってくるのです。

災害を通して、私たちはもう電気がない頃には決して戻れないことを身にしみて感じました。が、一方で、そんな状況になっていることに愕然ともしました。たったふた晩電気が来なかっただけであんなに追い詰められた気持ちになった自分が情けないです。みんながアーミッシュの生活になったり、「北の国から」の黒板五郎のような生活ができるわけではありません。私もできません。でも何か、何か変えないと、これまでの道の先には健やかな環境はないとだけは思うのです。

そして目先の小さなこととしては、電気や水道が使えなくなった時にいかに生きていくかを真剣に組み立てておかなければならないと思います。

近い将来、AIが「地球の環境を守るために害になるものを排除せよ」と指示されたら、人間だけが減じるウイルスを作成して空気中にばらまくだろうと思うのは、小説の読みすぎでしょうか？

一年の終わりに楽しくないお話で申し訳なく思います。

どうか私たちに時間が残されていますように。



「脱化石燃料」と苦心してきたこの30年。薪は暖房や風呂そして炭に。外灯の一部は太陽光発電パネルで。少しは石油の消費量を下げているものの、まだまだ。田畑の肥料は有機肥料と落葉の堆肥づくり。里内の落葉集めは重労働。そんな落葉を少し拝借して「落葉たき」。その火で焼くサツマイモは絶品。子どものころの想い出が凝縮していた。自然と共に生きる、そんな生活をもっと、もっと大切にしたい。

ぼくとあぶらむ

小野 聡之

「さとし」という名前を聞いてピンとくる方も、まだお会いしたことのない、はじめましてという方も拙い文章ではありますが、最後までおつきあいください。

さて、私があぶらむに初めてやってきたのがいまから14年前の夏休み、現在も続いている立教小学校のグローバルエクスカージョンという、難しい横文字の名前ですが簡単にいえば夏のキャンププログラムのことで、小笠原や沖縄といった他にも数ある魅力あるコースの中から、実にマニアックな飛騨高山コース（当時はそう呼ばれていたがいまはどのようなのだろう？）を選んだときから、いま現在までに至るわけです。

この飛騨高山コースのメインは真夜中に26キロを歩く「オーバーナイトハイク」です。小学5年生が26キロを歩く、いま思えばあんなにぼっちゃりしていたさとし君にはどうやって無謀な挑戦だったように思えますが、あの経験が一つの人生のターニングポイントになったことは間違いありません。

あぶらむのプログラムには老若男女問わず必ずスタッフがいます。当時もこの立教小学校のプログラムに富山の医大生がスタッフとして参加していて、私には兄弟がいるわけでもなかったですし、大学生のお兄さんお姉さんと関わる機会もあるはずもなく、こうした大学生の若いスタッフが一緒になって遊んでくれたことはとても嬉しかったことを覚えています。

オーバーナイトハイクの終盤は、寝ながら歩くくらい疲労困憊していて、そんなとき順ちゃん（漢字は違うかも）という大きな身体をしたお兄さんが僕の手を引いて、「さとし、もう少しだから頑張ろう！」と声をかけてくれたことがどんなに心強かったか、いまでもゴールしたときの喜びも忘れませんが、あのときの心強い一言をかけてくれたことはいまでも鮮明に覚えています。

あのときの嬉しかった気持ちや心強かった気持ちを今度は私がお兄さんお姉さん（お姉さんにはなれないか…）として、後輩たちいやあぶらむにやってくる子どもたちに還元したいなと思いながらスタッフとして可能な限りいまはお手伝いさせてもらっています。

立教小学校のキャンプが終わったあとも、どういうわけか冬休みに一人で遊びに行ったり、翌年の春にはネパールの旅に参加したり、大郷一家と年越しをしたこともありました。

ネパールの旅も私一人で親元を離れて、見ず知らずの大人の人や同じ世代の子どもたちと参加し、私にとっても人生初の海外旅行でした。

ネパールでも様々な経験をしてきましたし、思い出もたくさんあります。ネパールという異国の地でも、さとし君はドジなのでオートロック式の部屋に鍵を置いたまま外に出てしまい、いわゆるインキーをしてしまいます。それでも、大郷博という人は「自分の失敗は自分で解決しなさい」とヘルプはなし、そうなれば自力でなんとかするしかありません。幸か不幸か、立教小学校で幼いときから英語教育を受けてはいましたが、日本語の通じない本物の外国の人を相手に英語を話す、しかもアメリカ人とかではなくて、ネパールの人を相手にいきなり実戦することになったのです。

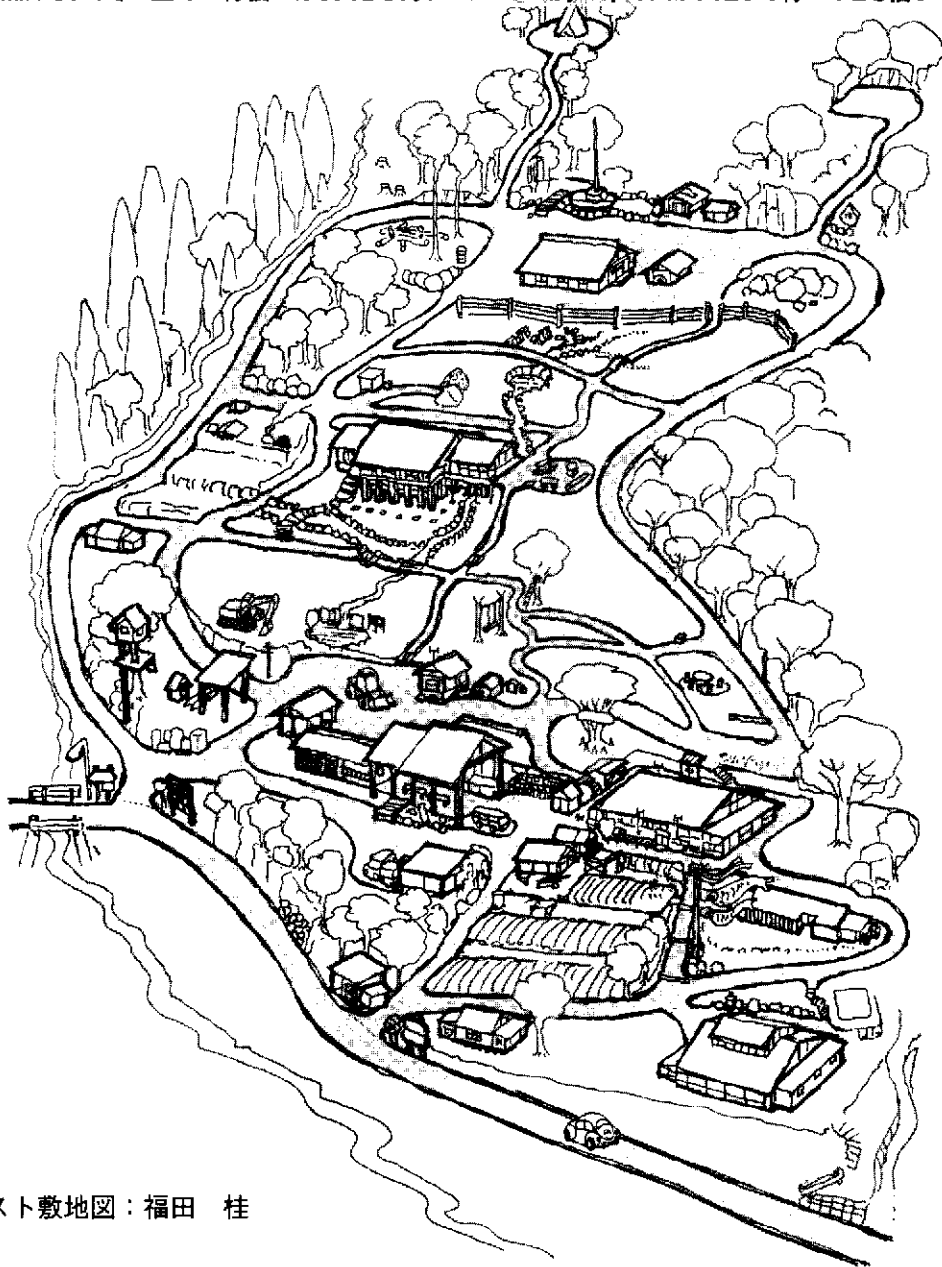
→11ページへつづく

図解 あぶらむの働き

あぶらむの働き、少し理解しづらいという意見があります。文章説明ではわかりづらいと思ったので図解してみました。一年の季節作業にあわせ、これだけのことをやりながら生活しています。あなたも一緒にどうですか。

私たちあぶらむの働きは多岐に渡っていますが基本は一つです。「人生は旅、私たちは旅人」です。この与えられた命、互いに「人生の良き旅人」であることを願います。それ故に、私たちあぶらむの働きは「旅人への奉仕」であり、「旅に必要な訓練と出会いの提供」です。

- ・人生という旅の途中で迷ったら立ち止まること、積極的立ち止まりを提案し、その場を提供しています。
- ・買うことがあっても創ることの少なくなった時代の中で、改めてものづくりの大切さを実践しています。
- ・人と自然、そしてその全ての背後にある大きな力、この三つの力の中で人が人として育つことを信じています。



イラスト敷地図：福田 桂

あぶらむの生活

1年を通しての季節作業

【1月~3月】

除雪作業 屋根の雪下ろし/雪害による倒木処理
冬材の切り出し/シイタケ・ナメコの植菌/家具作り

【4月~6月】

田植え準備/田植え/畑打ち・種まき/草刈り

【7月~8月】

学校・教会キャンプ受け入れ

【9月~12月】

稲刈り・脱穀/秋野菜収穫/落葉集めと堆肥作り
薪割り(三年後に使われる薪)/越冬準備

青少年育成

ゆくゆく 将来的に

- 海外ボランティアの受け入れ(ウーアア)
- 必要とする人との短期共同生活
- 里親としての養護養育
- 家庭裁判所補導委託

里山生活学校設立

- オルタナティブスクール(代替学校)
- 補導委託制度による少年の受け入れ
- ファミリーホーム (少人数による養護養育)



人生は旅・私たちは旅人

- ・旅人への奉仕
- ・旅に必要な訓練と出会いの提供

自己成長・出会い・気づき
訓練・リアリゼーション

各種企画
プログラム

- 旅企画 → 大人から子どもまでのネパールの旅
- ウォーキング → 野暮峠
- コンサート → サンテアゴ 巡礼

宿

- 団体研修 → 病院 教会 学校 看護学校

個人

- リアリゼーション
- リトリート

あぶらむ

目的・人生の良き旅人作り

旅の舞台である
地球環境問題への
実践的取り組み

- 木工等ものづくり
- 有機農業
- 里山生活全般(炭焼き等)
- 里山の環境保全

→8ページのつづき

それでも、ボディランゲージを交えながらの拙い英語ではありましたが何とか通じて、無事に鍵を開けてもらえました。言葉が通じたことも喜びでしたが、私の英語を一生懸命に聞いている相手の姿を見て、相手も一生懸命にこちらの伝えたいことを聞こうとしていた、言葉は多少違っていたり、片言かもしれないけれど、通じないことはないということに気づかされたのです。

学校の英語では学べないことを学んだように思えました。助けられないことに最初は、なんて薄情な人だと思いましたが、結果的には失敗から学ぶことを経験させてもらったわけです。助けられなかったことに意図があったかどうかはわかりませんが、そう思っておきたいと思います。

そういえば、一緒に参加した当時は中学生で私より2歳上のS井さんと夜中までトランプをしていたら、いきなり扉をものすごい勢いで叩く音がして、扉を開けると大郷先生が立っていて、「何をしてる！明日は長い時間を歩かなければならぬのにこんな遅くまで起きている奴があるか！」とそれはそれはすごい剣幕で怒られたこともありました。大郷先生に怒られたのはネパールが最初でした。

愛のある叱咤激励を受けたのはあれが最初で最後でしたと書きたいところですが、残念ながらそうではありませんでした。大学生の時に友人の女学生を連れて行ったときに、私が大郷先生に激励される姿を見ていたようで、東京に帰ってから、「なんであそこまで理不尽に怒られてまで何度も行っているの？」と言われたことがありました。確かに理不尽に感じる時も少なくはありませんし、他の人から見たらそう見えるのかもしれませんが、それ以上に「自分も、もっとできたよな」とか、「もう少し機転を利かせることができた」と思う部分が私の中にもあって、次に同じようなことがあったときは言われないようにしようということを繰り返しているうちに、ここまで経っていたというのが正しいのかもしれませんが。

10歳であぶらむにやって来た私も今年で25歳になり、三重県の中高一貫の女子校に勤務しています。いまどきのJCやJKと関わる中でも、あぶらむスピリットが少なからず入っていると感じています。あぶらむにいないときでも「さとし！よく考えろ！」という大郷先生の言葉が頭の中に響くことがあります。遠く離れていてもあぶらむはいつも自分の心の中に存在しているように思います。

さて長々と書いてきましたが最後に一言。最近と同世代の若者の姿をあぶらむで見かけなくなってきたというのが少しさみしいなど、あぶらむっ子集合！一人でも多くの若者とあぶらむの地で会えることを願って。

『第7期通常総会 開催報告』

第7期通常総会を2019年3月にあぶらむの里で開催いたしました。多くの方に参加いただき、心よりお礼申し上げます。

日 時：2019年3月23日（土）16：00～18：00

場 所：あぶらむの里 母屋

出席者：正会員20名

総会次第：

- (1) 開会挨拶
- (2) 議長・議事録署名人・書記の指名
- (3) 定数の確認
- (4) 議案

- ・第7期活動報告
- ・第7期決算報告及び監査報告

<貸借対照表>

資産合計100,414,321円（流動資産49,316,071円 固定資産51,098,250円）

負債合計 30,179円（短期借入金30,179円）

正味財産100,384,142円（うち当期正味財産増加額▲1,987,102円）

<収支内訳>

収入合計 14,813,406円（会費収入1,308,000円 寄付収入2,627,506円
研修収入8,816,720円 他）

支出合計 16,800,508円（減価償却費を除いた実質支出12,959,655円）

当期収支▲1,987,102円（減価償却費を除いた実質収支1,853,751円）

- ・第8期活動計画
- ・第8期予算(案)

<収支予算案>

収入合計 14,000,000円（会費収入1,500,000円 寄付収入2,500,000円
研修収入5,000,000円 他）

支出合計 17,230,000円（減価償却費を除いた実質支出13,630,000円）

当日の資料、議事録は、あぶらむの会ホームページに掲載しています。

<http://www.abram-no-kai.com/>

画面右メニュー “会員専用ページ”（パスワード：UTE48）にログインして、
画面右メニュー “2019年総会報告” をクリックしてください。

『第8期通常総会について』

第8期通常総会をあぶらむの里で開催させていただきます。多くの方のご参加をお待ちしています。

2020年度会費納入いただいた会員各位に対して、1月下旬～2月上旬頃に正式案内状を郵送させていただきます。

日時：2020年3月21日（土）16：00～（15：30～受付開始）

場所：あぶらむの里

議案：第1号議案 第8期活動報告、決算報告、監査報告

第2号議案 第9期活動計画、予算案

2019年あんなこと（あぶらむこの一年）

- 1月・予報に反しおだやかな晴れの日となる。中国、台湾のウーハーを交えての正月膳。
- ・12日～14日 沖縄の子たちとの雪祭り。どうにか雪有り、天気恵まれる。
 - ・ファミリーホーム（FH）設立申請に基づき、県当局からの現地視察。
 - ・27日 高山児童相談所より里子依頼の相談有り。
- 2月・あぶらむ物語Ⅱの原稿書きの日々。
- ・降雪量例年の1/4ほど。除雪の手間がはぶけ楽なのだがどこか寂しく心配になる。
- 3月・1日 バイク初乗り、外はもう春の様子。
- ・9日 里子A君（17歳）やって来る。
 - ・16日 「春一番の会」
 - ・23日 あぶらむの会第7期定期総会（あぶらむの里にて）
- 4月・15日～ さくら道海外ランナーやって来る。
- ・19日～22日 第26回さくら道国際ネーチャラン（名古屋－金沢250km 36時間以内）
 - ・23日 あぶらむの里の桜開花。例年より1週間早い。
 - ・27日 田起こし。
- 5月・3日 里子のA少年、事情により父親の元へ帰る。（里子解除）
- ・19日 東北被災地陸前高田にて「響け！希望のトランペット」開催、大盛況。
 - ・25日 田植え、畑の野菜、苗植え、種まき開始。
- 6月・宿の前のベランダ再建開始。（一人でシコシコ、仕上げまで1ヶ月かかる）
- ・4日、この時季に気温30度超える。
 - ・フランスより、ヤン・イオナの若夫婦、助っ人で3ヶ月間あぶらむへ、大戦力。
- 7月・ヤン、スズメバチに刺され大騒動となる。
- ・21日 柏聖アンデレ教会にて講演。「便利社会の落とし穴、そこから生まれる分断とひな形の喪失」。あぶらむの働きの今日的意味、精一杯語る。

- ・26日 岐阜 生と死を考える会 宿泊研修
- ・26日 岐阜 里親里子家族キャンプ (参加者50名余)
- ・31日～8月2日 立教PRC キャンプ (30名余)
- 8月・5日～10日 あぶらむ里山生活学校 (総勢30名余)
- ・12日～17日 立教小学校5年生あぶらむキャンプ
- ・22日 田の水切り
- ・30日 飛騨里親会主催による桂 歌之助 落語会 in 高山
- ・31日 第12回 桂 歌之助 落語会 in あぶらむの里
- 9月・8日 台風15号 関東に接近 大荒れとなり、列車の運休相次ぐ。
- ・19日 稲刈り開始。今年は東京より10人ほどの助っ人を得て大助かり。
- 10月・2日 JA 看護専門学校宿泊研修会。
- ・5日 脱穀、やや不作。
- ・12日 台風19号接近の中、第12回 WAYNO アンデスの風コンサート実施。キャンセル相次ぎ観客まばら、関東一円に大きな被害もたらす。
- ・旧木工作業所の片付け開始。リフォーム後、里山生活学校の拠点を目指す。
- ・31日 沖縄 首里城焼失。
- 11月・9日 初霜おりる。例年より半月ほど季節の訪れが遅れている。ドングリ大不作。熊の出没多数情報有り。
- ・23日 里の落葉はき大会。10名余りの助っ人を得るが落葉せず。
- ・高山児童相談所より里子の打診有り、マッチング作業開始。
- ・越冬準備開始。白菜、大根等畑の野菜収穫。
- 12月・9日～11日 理事会等のため東京へ
- ・あぶらむ通信 発送
- ・21日 あぶらむクリスマス&一年間ご苦労さん会。

2020年 こんなこと (行事予定)

- 1月・11日～13日 あぶらむ雪祭り。沖縄より21名参加予定。雪がありますように。
- 2月・各週末、あぶらむ周辺雪上ウォーキングと雪遊び、及び猪臥山 (1562m) 雪上ウォーキング
- 3月・21日 第8期あぶらむの会通常定期総会 (於、あぶらむの里)
- ・28日 春一番の会
- 5月・16日～17日 田植え (予定)
- ・24日 響け！希望のトランペット (岩手県陸前高田にて)
- 8月・3日～8日 あぶらむ里山自然学校 (予定)
- ・29日 第13回 桂 歌之助 落語会
- 9月・20日 稲刈り (予定)
- 10月・10日 第4回 持寄りコンサート (大人の学芸会) (予定)

おしらせ

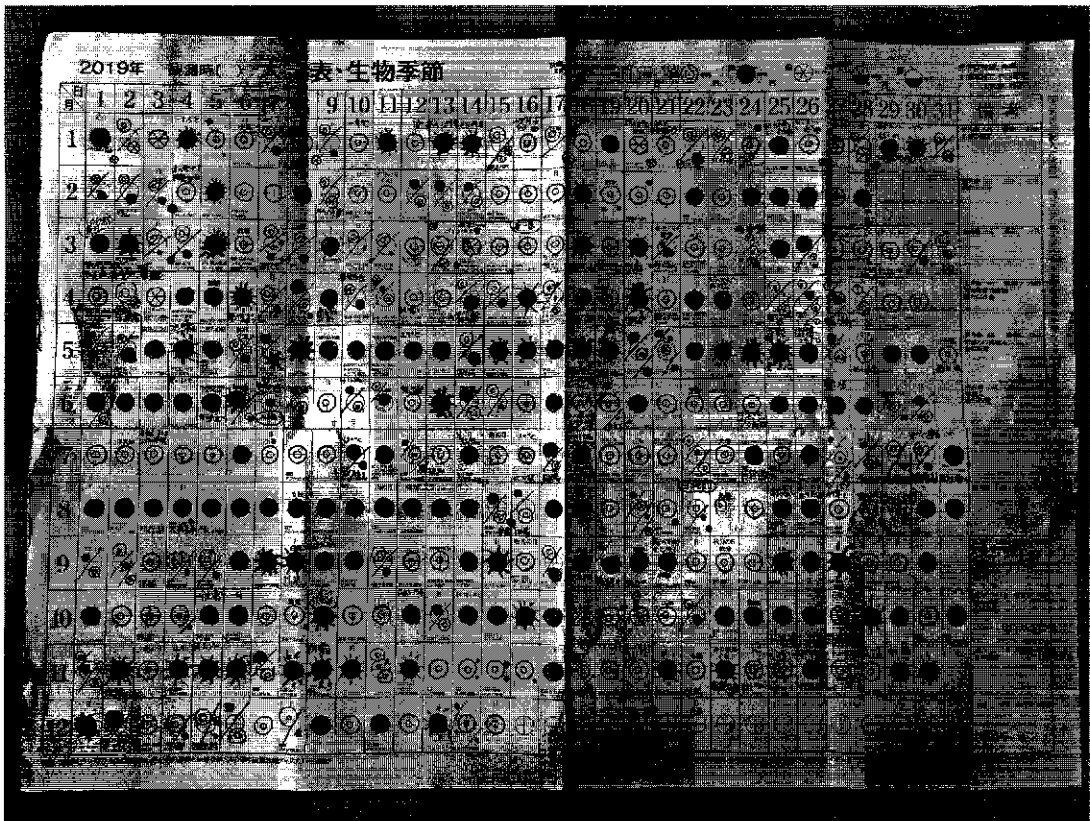
○企画催行プログラム縮小について

世の中、あちこちに少子高齢化の影響が出てきていますが、ご多分にもれずこのあぶらむの会も例外ではなくなってきました。従来の活動まだまだ十分にこなせるのですが、「企画・催行」となると少々難しくなってきました。「企画・催行」となると膨大なエネルギーを必要とするからです。

他方、例えばあぶらむ周辺舞台に健康ウォーキングをしたいなど、小グループで企画を立て、参加人員を集め、それをあぶらむへ持ち込んでもらえるなら、私たちは大助かり。喜んで応援、案内させていただきます。

あぶらむに新しいスタッフが与えられ、従来のように責任をもって企画、催行できるという判断がつくまで、企画催行プログラムは縮小させていただきます。皆様のご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

今年（2019年）の天気表



昨年に続き今年も小雨。異常気象による地球温暖化が叫ばれる今日、生命の大地地球環境の変化を身近なものとするための第一歩として、「年間天気表」の作成をお勧めします。

写真でみるこの一年



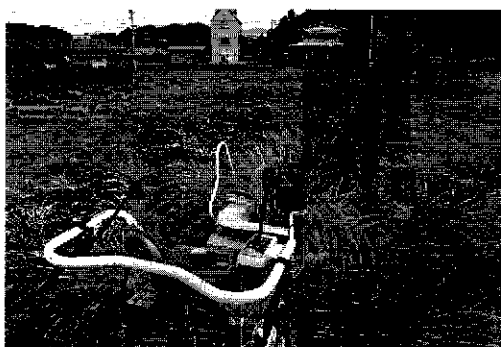
「響け！希望のトランペット」岩手県陸前高田にて。指揮は本会理事の杉木峯夫さん。



100年に一度咲くと言われる竹の花。全て枯れてしまった里のクマザサ。



立教小学校5年生、今年も頑張りました「オーバーナイト・ハイク」26km。



実りの秋の風景。春祭りは豊作祈願、秋祭りは収穫感謝。どちらにするかで村はモメたという。先に願い事をするか、終わってから全てに感謝するか、さてあなたはどちら派…!?

||||| 寄付者一覧（'18年12月13日～'19年12月15日）敬称略 |||

愛知聖ルカ教会／安藝淳二／新家恵子／新崎春子／(株)アリミノ 田尾兵二／池淵透／市川聖
マリヤ教会／井本正樹／上田英子／鶴川久・貴子／鶴川雅行／江崎忠男／江見淑子／岡田贊
三／沖繩聖マルコ保育園／小島正則／小野出恵子／梶原恵理子／片桐多恵子／片山佳子／
加藤寛／加納美津子／香村美成／木村秀子／倉石昇／黒木一郎・誠子／高良孝誠・和枝／小
柳證／財満研三郎・由美子／坂本吉弘／佐々木慶太郎／佐藤芳子／沢野弥生／静谷英夫／清
水自動車整備工場／下地道子／新開春樹・桂／杉浦進・恵美／杉木峯夫／鈴木暁／鈴木冴子
／鈴木武次・保子／鈴木康仁／須田肇／園部秀穂／高瀬留美／高田建大／高柳真／俵里英子
／丹安紀子／中部学院大学宗教委員会／土田英美子／筒井健作／寺田信一／東京セントポー
ルライオンズクラブ／桃原松五郎／富山聖マリア教会／直井雅子／永井深雪／中島務／中西
和子／中村力・英子／日本聖公会ナザレ修女会／野田直人・さえ子／長谷川秀司／畑井正春
／速見直子／原川節子／藤井和彦／藤井真喜子／古川昭子／古沢伸雄／北條鎮雄／星野一朗
／前田晃伸／松居勲／松平信久／松戸聖パウロ教会／松本昌子／三沢悠子／水谷勝／宮城正
男・正子／宮崎秀貴／宮嶋真・公恵／宮本房江／三好洋子／宗像千代子／諸岡研史・千佐子
／八木克道／安田昭彦・香恵／矢部直美／山田益男／遊玄洞阿久津富男／湯田啓一／横浜聖
クリストファー教会／李禎善／無名氏3名

||||| 物品寄付者一覧（'18年12月13日～'19年12月15日）敬称略 |||

(株)アリミノ 田尾兵二／クラブマンファクトリー 高橋秀／安心プランニング 中村洋／梶
野邦明

||||| ガヴィス基金 本年度支援先 |||

東日本大震災被災地応援

||||| 2018年会費納入者一覧（'18年12月13日～'19年12月15日）敬称略

相沢牧人／赤井充也／赤松道子／秋本光一郎／朝野恵美子／朝比奈誼／朝比奈時子／穴井悦
子／雨宮寿子／飯島千津子／飯田孝太郎／池淵透／石原つや子／一柳典利・百／伊藤幸史／
伊藤宣子／伊東日出子／伊藤浩子／今関公雄／岩佐葵史子／岩崎海大／岩間光雄／上田敏明
／上村誠・洋子／鶴川久・貴子／内田孝・由美／宇野徹／江洲文子／太田喜元・昌子／大平
和子／大房健樹／岡戸信義／岡野峻／小川卓／尾崎和廣／小野裕／笠井正志／笠原雅子／片
岡義博／片桐多恵子／勝山千里／門谷成美／金森貴之・葵／亀山幸子／唐木田麻起子／河合
昇／河合由美子／川上詩朗・美砂／川口弘二・暁子／河田健二／川満すわ子／岸元忠義・静
江／岸本望／北昌子／金城真生／金城由美子／久世治靖／倉石昇／倉辻明男／栗山盛雄／栗
山洋子／黒田則子／小池直子／小泉恵子／小林賢三／小松純一／小柳證／近藤弘／齊藤寛明
／酒井厚子／櫻井智則／笹岡淳也・由紀子／佐々木国夫／佐藤耕一／佐藤純／佐藤哲典／佐
藤裕／佐藤芳子／座間幹生／沢野弥生／篠宮慶次／柴原薫／洪沢一郎／洪谷真理／島文子／

清水幸平／清水靖夫／志村弘子／下地道子／下田英一・由香／城下彰／杉村進／杉本良平・和子／鈴木暁／鈴木正土・裕子／鈴木武次・保子／鈴木千絵／鈴木知子／鈴木信子／鈴木康仁／ストップス静江／砂川博秋／聖母訪問会／仙敷正俊／園部千恵子／染谷孝章／高瀬留美／高橋保／高濱友理江／高柳真／田口清吾／竹中浩／竹村真紀／田中孝子／谷市三／谷孝子／俵里英子／丹安紀子／筑井宏子／陳品岡／寺谷恵美子／時高照子／豊永泰子／永井深雪／長坂尚／中台信子／長野純吉／中村洋／長谷幸雄／中山美世子／西垣正子／西口晃／西口喜久枝／西村正和／野崎久子／野田修助・和子／土師晴子／羽柴加寿代／長谷川秀司／畑井正春／畑中幸次郎／播磨裕治／日野忠市／福田桂・亜矢子・一太／福留祥子／藤井誠・ひろ子／古市進／古川秀昭・昭子／星野一朗／星野直子／細川哲士／前田晃伸・容子／前田晃・広世／前田眞智子／松居勲／松田捷朗／水谷小枝子／溝際庸介／宮城正男・正子／宮崎秀貴／宮脇加代子／三好洋子／武藤六治／宗像千代子／室岡恵／衆樹歩実／八木克道／矢後和彦・正子／山内寿美子／山口泰生／山崎美貴子／山田益男／湯田啓一／吉野美智子／吉野康／若園絃志／無名氏

||||| 新規会員（'18年12月13日～'19年12月15日）敬称略 |||
陳品岡／岩崎海大／金城真生／金森貴之・葵

《「あぶらむの会」について》

「あぶらむの会」は旧約聖書創世記に出てくる、信仰の父アブラハムの旅立ちの前の名前、「アブラム」に由来しています。それによれば、彼はその内的必然性故に、安住の地を離れて「行く先知らずして」旅立ちました。全てに対してあまりにも安定を求める今日、私たちは旅としての人生に臆病になり、旅に必要な能力を欠いているように思われます。

「あぶらむの会」は、自己の人生に果敢に挑戦し、人生の良き旅人を育てるため、それに必要な訓練や出会いの場を提供してゆくことを目的としています。